



森のなかま

2008年9月号

NO. 5 (継続150)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

植樹祭に向けて(2) ~第61回全国植樹祭 2010 かながわ~ 第1回 森のリレーフェスタ・育樹のつどい

平成22年に開催予定の「第61回全国植樹祭」に向けた活動がいよいよ始まりました。今まで着実に実践を積み上げてきた「県民との協働による森林づくり活動」に、より一層の弾みをつけることとなった「全国植樹祭」は、61回目にして初めて神奈川県で開催されます。

(第1回植樹祭は山梨県で開催されましたが、前年の昭和24年天皇皇后両陛下が箱根町仙石原で記念植樹されたのを嚆矢として始まったと言えます。)

県では『平成22年春季に神奈川県で開催する第61回全国植樹祭の機運を全県的に盛り上げていくために、「植える」・「育てる」・「活用する」といった取り組みを県民の皆様に体験していただくイベント「森のリレーフェスタ」がスタートします』と呼びかけています。

この一大行事となる本番に向け、具体的な取り組みが企画され、機が熟し、いよいよ助走開始。そして「森のリレーフェスタ」第1回目はつつがなく終了しました。

以下、概要をお知らせ致します。

日時 平成20年7月26日(土) 晴 9:30~14:15

場所 相模原市相模湖町相模湖畔林・相模原市津久井町三井水源林

参加者 緑の少年団・ボーイスカウト・ガールスカウト・各団体の指導者
一般参加者・招待者・主催者等 175名

インストラクター 島岡③、竹島③、渡辺③、吉山③、柏倉④、森本⑤、武川⑥、齋藤⑥、
戸谷⑥、渡部⑦、塩谷⑦、武者⑦、久保⑧、野田⑧、黒澤⑧、村井⑨

活動内容

午前 相模湖畔林 開会式(リレーセレモニー) 県知事・県議会議長・相模原副市長
下草刈り(平成18年植栽地)

午後 三井水源林 自然観察会

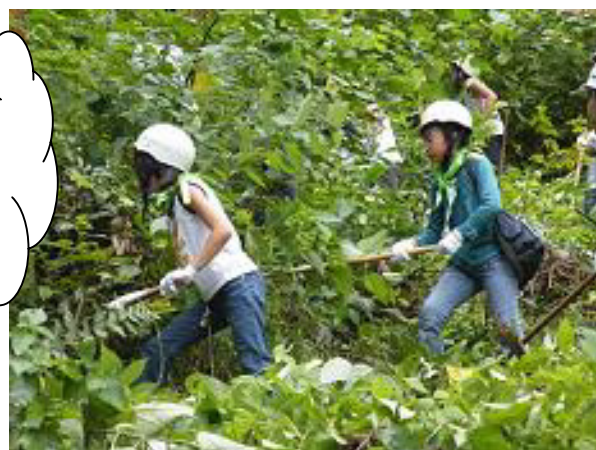
(水源林の概要解説、水を育む森林づくり、混交林・複層林・保安林・林床植物等について説明)

(記 柏倉)

森のリレーフェスタ・育樹のつどい。
 松沢知事、県議会議長、相模原副市長
 を囲んで、ボーイスカウト、ガールスカウト、
 緑の少年団・代表の皆さん。



開会宣言
 と
 下草刈り
 スタート



三井水源林の
 自然観察会
 は、「水を育む
 森林づくり、
 林床植物、
 保安林、混交
 林、複層林、
 広葉樹林、杉、
 桧の樹齢？、
 パートナー
 林、など」盛
 りだくさんの
 説明がありま
 した。

かながわのてっぺん

④

山頂のヒントと連想

飯村 武

丹沢のシカ調査を通じて、蛭ガ岳山頂で今なお鮮明に思い起こされる2つの場面に出会った。その一つは塩分の供給、もう一つは毒草の採食である。塩分の供給とは、蛭ガ岳山荘の台所の排水をシカが恒常的に飲みに来ることで、雑排水に含まれる塩分摂取が目当てである。人間の食べ物では塩をたくさん使うので、そのお零れ頂戴の図式である。もう一つの毒草とは、根が猛毒とされるヤマトリカブト（キンポウゲ科）のことだ。神経痛やリュウマチの鎮痛薬として用いられるが、殺人にも悪用されることで名高い。山頂付近にその群落があるが、シカはその葉を一斉に食べつくす。野菜の塩揉、甘い鹹いも塩加減、良薬は口に苦し、健胃薬、整腸剤、毒消し、といったキーワードが浮かんでくるが、塩分がヤマトリカブトの毒を消すといったご利益はなさそうだ。

蛭ガ岳の東隣に丹沢山がある。この山の東山腹を源流とする川に塩水川がある。塩とのゆかりは不明だが、無縁ではない気がする。県はこの川の流域至近でシカの育成を目的に給塩事業を進めた経緯がある。塩を土に鋤きこんでおくのだが、シカは土ごとこれを舐める。ウシやシカなど複胃、反芻動物の第一胃（瘤胃）では、食草を消化する過程で酢酸などの酸が作りだされる。これを中和するため適量の塩分は必要不可欠とされ、わが国各地での給塩事例は多い。

丹沢のシカはいま、山間農耕地はおろか山麓一帯の集落をも行動範囲とする勢いだ。被害に及ぶので嫌われもののお尋物だが、行動圏を拡大助長する要因の一つとして塩分が介在しているように思われる。

丹沢の自然は、オーバーユースと騒がれるほどハイキング、キャンプなど Out door が入り込み、特に河原での家族連れのお賑わいが著しい。ゴミ持ち帰りの徹底を期してはいる

が、人の集まるところに塩ありである。この実態をシカが黙っている筈がない。つまり、Out door が行動圏拡大の有力な拠点の一つになっている、という見方だ。

次にヤマトリカブトの葉の採食。シカにとってどんな味がするのだろうか。毒は根にあるというのだが、シカはそれを知っているのか。舌は？味蕾は？胃・腸は？と心配と興味は尽きない。河豚の話とどこか似ていて「河豚食う無分別、河豚食わぬ無分別」「河豚は食いたし、命は惜しし」に重ね合わせて呪文をとなえていたとき、採食は八月下旬に集中していることに気がついた。以後、他の植物についての集中的採食に注意を払うようになった。例えば、ササ類の新葉は五月中旬に、またテンニンソウは茎葉が充実した八月下旬に集中して菜食するのである。旬とは魚介、蔬菜果物などが良く熟して味の最もよい時と辞書にあるが、シカたちは人間などとても及ばぬ能力を駆使して旬を見極め、その味を楽しんでいるのだろう。

蛭ガ岳山頂の塩分と毒草ヤマトリカブトの取り合わせは風林火山へと広がってゆく。蛭ガ岳西方約5.6kmの位置に犬越路という名の峠がある。その名は甲斐（山梨県）武田信玄の小田原北条攻めの際の往還に由来する。甲斐は海のない山国だ。武田は越後上杉と戦い、北条攻めに執念を燃やした。それは「海」すなわち「塩」が欲しかったのだと歴史家は説く。

鳥兜は鳥甲とも書き、舞楽のとき常装束に用いる兜のことである。シカが食うヤマトリカブトは同属近似種が多く、種によって、薬効・毒性は異なるようだ。花の形が鳥兜（甲）に似ているところから付けられた名だがというが、甲冑もイメージする。鎧兜に身を固め、塩を求めて犬越路を往還する武田の風林火山、蛭ガ岳山頂の「ヒントと連想は」留処もない。

私の認識

野鳥その60

高橋恒通

スズメ目カラス科の野鳥をご案内して参りましたが、今月は私が未だに観た経験の無いカラス科の野鳥について簡単にご説明いたしましょう。

一番手は留鳥のルリカケス(漢和名:瑠璃懸巢、英名:Lidth's Jay)であります。

体長L=38cm、♂♀同色、青紫色と赤紫色大変に美しいカケスだそうです。

棲息域は世界地図上で鹿児島県下の奄美大島と徳之島のみとの事です。然し、徳之島では現在、ルリカケスの野生の生きた個体は確認されていないので絶滅したものとされており。

この野鳥は、国の天然記念物、特殊鳥類に指定され厚く保護されていると言われております。そしてルリカケスは鹿児島県の県鳥にもなっております。

余談となりますが、鹿児島県の県花はミヤマキリシマ、県木はクスとカイコウズ(ブラジル原産のマメ科の落葉小高木、別名はアメリカディゴ)であります。

二番手は冬鳥のミヤマガラス(漢和名:深山鴉・深山鳥、英名:Rook)です。体長L=47cm、♂♀同色、我国では九州で冬鳥として観る事ができる野鳥だとの事です。

ハシブトやハシボソよりも寸法的に小さいカラスで、最大の特徴は嘴が、まるで中字用毛筆の先の如く、鋭く尖って少々長めに見える点だと言われております。

啼き声はハシボソガラスよりもしゃがれて「ガー」と一声ずつ発するそうです。

三番手も冬鳥のコクマルガラス(漢和名:黒丸鴉、英名:Daurian Jackdaw)です。体長L=33cm、♂♀同色ですが暗色型と淡色型があるとの事です。暗色型については黒一色ですが、淡色型は頭頂、嘴、喉下が黒色で、後頭部、頸側、胸前から腹は白色であります。

この野鳥はミヤマガラスの群の中に混じっていることが多いと言われておりますので、ミヤマガラスの群に遭遇したら、コクマルガラスの存在を忘れずに注意深く観察してみてください。

啼き声もカラスの仲間らしく無い「キュ」と発声するそうですので、ミヤマガラスの群の中で寸法が小さく「キュ」と鳴く個体は暗色型コクマルですし、淡色型なら白色部分で容易に判別が出来る筈です。

冬季に九州へ出掛けるチャンスのある方は、カラスの群は要注意ではないでしょうか。

最後は数少ない冬鳥のワタリガラス(漢和名:渡鴉・渡鳥、英名:Raven)です。

体長L=63cm、♂♀同色、カラスの仲間では最大の寸法で、♂のトビ位の大きさです。

我国では北海道で流氷の頃に、カラスに関心のある人なら「アッ、ワタリガラスが居たッ」と、その大きさから判断が出来るそうです。

ワタリガラスは、黒一色の“カラス”と呼ばれる野鳥の中で、地球規模では北半球全域、即ち北米大陸、ユーラシア大陸に広く分布棲息している野鳥です。我国では上述の如く、何故か冬季に北海道は羅臼町あたりで、海岸の岩棚や草地などで観察できるそうです。

性格的にはハシブトやハシボソに比べて警戒心が強く、人間の近くに寄ることは少ないとの事です。

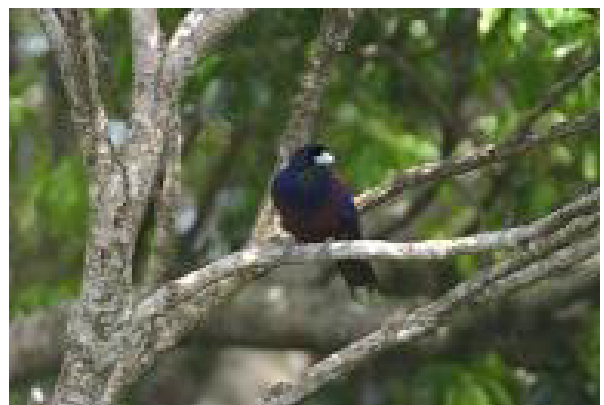
啼き声は大きな声で「カオ」「カポ」「グアグア」「ガガガ」等々と沢山のバリエーションがあるそうです。そして双眼鏡を持っていれば、下嘴の基部から喉下にかけてヒゲボサとなっている点も大きな見処ですので覚えていて下さい。

若し拙稿ご愛読の同志の方で、海外旅行の折には、北米でもカナダでもスカンジナビア半島でも、大型のカラスを見たら間違いなくワタリガラスだと思って観察して下さい。

＝＜参考資料＞＝

- 日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説／叶内拓哉、分布図・解説協力／安部直哉、解説(鳴声)／上田秀雄、山と溪谷社。
- 鳥630図鑑、(財)日本鳥類保護連盟。

ルリカケス(奄美大島)(鹿児島県大和村ホームページより)



山菜を楽しむ

その6 地球を食べる アシタバ (S、A、B) 有田保彰

小さな池に100匹の魚がいる。そのうちの50匹を獲って食べても、また増えて100匹になる。また50匹食べて、また100匹に…。持続的利用とか持続的再生産という話の説明に、こんな例が使われます

山菜採りも、これと同じで、幾つかある中の一つだけを採れば、しばらくして(あるいは、来シーズン)また楽しめます。

最近、クロマグロを始め主要な魚類が急激に減っていて、遠からず獲れなくなってしまう恐れがあると言われています。目先の漁獲高を増やそうと、根こそぎ獲ってきたことのツケがきているのでしょう。

また昨日今日の(本稿執筆時)ニュースでは原油高のため、20万隻もの漁船が出漁しないこととなったと報じています。

こういったことが、食糧資源問題を根本から見直すきっかけとなるのなら良いのですが…。

殆どの植物は他の生きものを食べることなく、自ら光、炭酸ガス、水から栄養を作り出します。庭の雑草の旺盛な繁殖力を見ていると、大地の底力に驚かされます。これらの雑草をあれこれ食べていると、地球の食糧生産力は60億人分くらいは、軽くまかなえるのではないかなどとつい、夢みたいなことを考えてしまいます。

(146号シリーズその2をご参照ください) マグロだ牛肉だと贅沢を言わずに、身近にある旬のものだけで満足すると仮定したら、地球の実力では何億人分まかなえるのでしょうか？

アシタバ(明日葉)という意味は、ご存知の通りですが、翌日はともかくとして、一週間もすれば、その同じ株からまた若葉が採れます。しかも、邪魔で抜き捨てることこそあれ、手間など全く不要で勝手に伸びてくれます。

我が家では、1年12ヶ月のうち、10ヶ月ほど利用しています。埼玉にいる友人が、ぜひ自分の庭で育てたいというので、数株移植してみたのですが、3年ほどで出なくなっていました。なぜか、海岸近くでないダメなようです。(最低気温の違いのためでしょうか？)

ときどき店で見かけるアシタバは、30cmくらいにまで葉が開いたものが多いのですが、我が家では、せいぜい15-20cmくらいの葉が開きかけたものを、極上品だなどといって使っています。

ベタツとした黄色の液体が折ったところから滲み出て衣類などに付くと厄介ですが、これが



画 有田保彰

旨味のもとなんだと思っています。

冷蔵庫の野菜室に入れておけば驚くほど長く保つので、頃合いの大きさになるたびに採って、ためておきます。

私は大好きなのですが、家族はクセが強過ぎ、と言って敬遠気味なので、カッコ内に「A」と「B」も書いておきました。

ときどきお裾分けする友人の一人は、スープ作りには欠かせないと言っています。セロリと同じように微塵に切ってパッとちらすだけで、がぜん奥行きが出るとか。煮浸しも同じですが、アシタバをほどよく使うと、全体の味の深みがぐっと増します。クセをやわらげるため、白滝、ニンジン、キャベツ、シイタケ、油揚げなどを適量加えた炒め煮を卵でとじたものが、我が家の定番の常備菜です。

それに負けず劣らず美味しいのが、天ぷら。特に、太めの茎を縦に二つ三つくらいに裂いたものを数本まとめて揚げると、スコブルつきで美味しいです。これは本当に「S」クラスです。

早春の若芽は、ざっと湯がいて、ほんの少し水にさらしてから、オカカをかけるかカラシで和えるだけで、十分に美味しくいただけます。特に、クサヤを酒に浸してから炙って、適当な大きさに裂いたものを、ざっと混ぜて、好みに醤油かそばつゆなどで薄味をつけると絶品です。クサヤがなければ、アジの開きでもokです。今風に言うと、海の幸と山の幸の絶妙なコラボレーションとでもなるのでしょうか。良く冷えた辛口の日本酒か焼酎が、ますます美味しくなる一品です。これも「S」。

物の本によれば、お浸し、和え物、汁の具、佃煮、味噌漬、一夜漬などなどさまざまな利用法があるようです。いろいろと試されてはいかがでしょうか。

薬草としても、利尿、緩下、毛細血管強化、高血圧などなどたくさんの薬効があるようです。

(つづく)

活動短信

6/17~7/27

野外体験学習

日 6月17日(火) 13時半~20時50分

場 横浜自然観察の森

参 横浜市立西寺尾小学校4年生・74名
校長、教諭6名イ L高橋③、SL野田⑧、齋藤(武)⑥、
武本⑦、松山⑩、海野⑩、

「横浜自然観察の森」は三浦半島から続く横浜最大の緑地帯で大変豊かな自然環境が保全されており、ここでは「生き物の賑わいのある森」を目指し、環境調査、環境保全、環境教育、を推進する拠点となっています。心配された天候も時々陽がさす好条件となり、緑豊かな素晴らしい環境の中で実施されました。生徒達はオオシオカラヤショウジョウトンボが飛び交う湿地で水生生物を手に取り観察。ノギクの広場では200万年前の貝の化石の破片や植物をルーペを使って観察。細い流れの所では川トンボやイトトンボや崖に咲くイワタバコを観察。、バードウォッチングでコゲラの観察。タイワンリスを観察。クヌギ林では萌芽更新を観察し昔の生活や、木の利用等について学んだり、盛り沢山の体験ができました。夜は、ホタル観察 ナイトウォークにでかける。「ヘイケボタルの湿地」「ゲンジボタルの谷」で観察しそれぞれの特徴について説明する。ゲンジボタルの谷ではリーダーの高橋さんが用意された真竹の筒にホタルを入れ、ほのかに光る“かぐや姫”の世界に浸る。短時間ではあったが、闇の中に飛び交う光の神秘、“幽玄の世界”に大感激！生徒達は昼の自然教室と夜のホタル観察を通じ、自然環境を大切に思う心を養い、自然に親しむと言う今回の活動内容を五感を使って、熱心に学び、充実した体験ができた喜びが我々にも強く伝わってきました。(記 10期 海野)

久田緑地での体験講座

日 7月5日(土) 9時半~15時 曇り後晴れ

場 大和市上和田地内「久田緑地」

参 12名

イ 中島⑨加藤⑧

トラストみどり財団：高橋、壹崎、青木(看護師)

小田急桜ヶ丘改札口に集合し、徒歩で作業場となる久田緑地へ向かった。現場は雑木林とスギヒノキの高木の下に笹がはびこり青木等の陰樹も生え、放置しておくやブとなり、ゴミ捨て場と化す危険性のあるところであった。笹の刈り方の説明と簡単な準備体操の後、中鎌ではびこる笹刈を体験して頂いた。ノコギリと鉋を持つ我々インストラクターは陰樹等を切り作業の能率を図った。平坦な場所であったこと少数ながらやる気満々の方が集まったこと等により予想外の作業量をこなすことが出来た。途中、休憩時間を利用して中島リーダーが青木の葉を使ったサンダルとシロの葉でのパッタ作りを披露し好評を得た。午後は境川に沿って北から南に広がる久田緑地を歩き、傾斜林の樹木や植生を観察し、桜ヶ丘で解散した。熱中症や怪我人もなくまずまずの体験講

座になった。

(記 8期 加藤)

親子の顔輝く「つくの幼稚園」自然観察会

日 7月6日(土) 10時~13時半

場 やどりき水源林

参 園児 47名 保護者 42名 園職員 6名

県 金田副主幹

イ 石川②、竹島③

今年で9年目となる「つくの幼稚園」によるやどりき水源林での観察会。森歩きと川遊びの2部構成で梅雨の合間のひと時を思いっきり楽しみました。幼児対象の取組は課題設定が命。マツカゼソウ、コアカソ、イロハモミジの葉をコピーして同じ形を探してもらう。パートナー林に入って、スギ・ヒノキの大木に触ってもらい、実生の赤ちゃんを探してもらう。続く川遊びは、手作りの観察箱を片手に清流に棲む川虫探し。この時間は園児以上に常連となった親の期待も大。とは言え、連日の雨で水かさの増した沢での捕獲はかなり難しかったようでした。昼食をはさんでヒノキの丸太切り。ふくろうの焼印を押して素敵なコースターのお土産が出来あがりました。(記 3期 竹島)

野外体験学習

日 7月9日(水) 10時半~13時(曇)

場 県立21世紀の森 こどもの森

参 横浜市立南神大寺小学校6年生 52名
先生10名イ L斉藤武⑥ 渡辺孝③ 高橋恒③ 宮本聡④
久保寺⑦ 海野⑩

今日は、学校にとっては、恒例の下刈りである。インストラクター6名は、早めに現地入りし、下見、及び区割り作業をして、内山橋で学校の到着を待った。予定より20分早く到着、早速はじまりの会で今日の会の目的を説明、ストレッチの体操を済ませ、作業道具を身につけ出発した。先輩が植樹した木の成長を確認、各班(6班)は、インストラクターの指導で刈り始めた。木は草より高く、誤伐することもなく刈り進んだ。時間的に余裕あり、木の観察、昆虫の観察なども出来、予定通り時間内で終了することができた。ミミズや毛虫、沢蟹など見つけて大騒ぎ、今回も高橋さんがマムシを捕まえて生徒や先生に触らせてヘビの感触を体験させた。

数年前にも同じ場所で、マムシを捕まえており、マムシの棲息に適した場所と云える。今後の作業も気をつけましょう。終わりの会で草刈作業の感想を聞くと、ほぼ全員の生徒が楽しく草刈が出来て達成感も感じ学校としても、よい体験学習が出来たことと思います。

(記 6期 斉藤)

社)神奈川県法人連合会『法人会の森』(下草刈り活動)

日 7月26日(土) 9時~13時半

場 ヤビツ峠 「法人会の森」

参 法人会会員 329人

県 田中主査、長井主査、牧野技師

公 小林(看護師)

イ L伊藤⑦、国分③、柳③、相馬⑤、山崎⑦、有坂

⑧、浦野⑧、加藤⑧、齋藤⑧、小沢⑨、高橋⑨、辻村⑨、福島⑨、天野⑨、小笠原⑩、酒井⑩、中元⑩、宮下⑩

地域社会貢献運動の一環である下草刈り活動に、関係者を含め総勢 351 名が参加。連日の猛暑。熱中症もなく安全に作業が行えるかなど心配しながら、バスに揺られヤビツ峠に向う。現地は曇り。ぎらぎらする暑さは何とか逃れられそう。

式典開始。主催者の挨拶に続き、リーダーの伊藤インストラクターから、熱中症対応、鎌を使っての安全作業、危険な動物や植物、ヤマビルの話しなど、「下草刈り作業と安全確保」について説明があった。当地には平成 11 年にブナ、ケヤキ、コナラ、イロハモミジ、ヤマボウシが約 3,000 本植えられ、会員の皆さんによる下草刈りが毎年行われている。

軽いストレッチ体操の後、いよいよ作業の開始。班毎に分かれ、現場で鎌の使い方、刈り方などを指導。順調に進んでいる班、作業が遅れている班など様々であったが、予定の 12 時には無事終了。全員で草刈りが終わった山を見る。刈られた草が整然と置かれ、草刈りの効果が今年も出るのではないのでしょうか。曇り空のため熱中症になった人はいなかったが、ヒルに吸血し、小林看護師にお世話になった人が 10 名程度。軽症また迅速な手当てにより大事には至らなかった。病気や怪我もなく作業が終了し全員が無事帰途に着いたことは、インストラクターにとってはありがたいことであった。

(記 10 期 宮下)

県民参加の森林づくり

日 7月27日(日) くもり

場 南足柄市塚原地内

参 定置型(6団体 105名)

公 金子理事長、茂木課長、稲葉、小林、青木(看護師)

組 石井、志村

イ 森田①、吉山③、永野⑥、小野⑦、白畑⑦、浦野⑧、園田⑨、宮向井⑨、高橋⑨

今回の定置型活動は平成5年から開始され、全体で6区画6団体(他に協力団体1団体)によって、今年度まで15年間にわたり、植樹から下刈りを行ってきましたが、15年の区切りとして今年度が最後の活動となりました。本定置型活動は近年不思議と雨にたたられ、集合したものの作業することなく中止となった例もあり、今回も雨を心配しましたが、曇りがちではありましたが作業にはちょうど良い天候となり一安心でした。

作業現場は15年行っている場所といっても、傾斜がきつくだ下草で足元も確認し難い場所に加え、初参加者も多く、各リーダーから安全指導を受け作業を開始した。作業は特に大きな事故も無く、それぞれの区域は下草が刈られ、生育樹のカヤ、ケヤキ、イヌエンジュ等が一段と生き生きとし大きく見えました。

作業後は金子理事長から5団体に対し、今までの活動への慰労の挨拶とともに表彰が行われ、各団体の代表者から15年の活動の思い出や、今後の活動の意欲等が発表されて式典も無事終了しました。

公社で用意した15年間の思い出のパネルも掲示され、

昼食時間は多くの参加者がパネルの前に集まり、思い出話が弾んでいるようでした。

[表彰団体]

- ・ 水道企業団森の会
- ・ 東京ガス森林づくり友の会
- ・ 松下グリーンボランティア倶楽部
- ・ 富士緑の森の会(別の日に活動のため、本日は参加なし)
- ・ 森林インストラクター4期会
- ・ 森林インストラクター5期会

参加された皆さん、15年間大変お疲れ様でした。

(記 9期 高橋)

夏の昆虫に出会う旅

日 7月26日(土) 10時~15時

場 21世紀の森

参 一般参加 46名

イ 増子③、須長⑥、波多野⑨、

足柄グリーンサービス 内田所長、布施、野田、

サポーター 日比野、高田、

インストラクターと足柄グリーンサービス社員とサポーターが各班1名ずつ配置され、参加者は小学校低学年を連れた家族が主体で、昆虫やクモの観察をしながら天然の森コースを案内した。お目当てのクワガタ・カブトムシには出会えなかったが、タマムシの輝きラミーカミキリのパンダ模様、コナラの樹皮に溶けこむように擬態するカシワマイマイ(蛾)の幼虫を見つけ自然の巧みに皆感心した。

暑さ対策は事前に周知されていたので事故はなく大汗をかいて無事下山した。

子供達は元気いっぱい、熱心に質問しメモをとる子や解説にはあまり関心がなくひたすら虫を探して動く子など个性的であった。(記 6期 須長)

体験講座 水生生物観察と森林散策

日 7月24日(木) 9時30分~15時30分

場 やどりき水源林

参 18名(大人14名・子供4名:小学校低学年と幼児)

イ L愛木⑦、竹島③、宮本④、高崎④、齋藤⑥、須長⑥、山崎⑦ 研 小清水⑤、篠木⑦、諏訪部⑨、松山⑩

公 鳥海、河野 廣島(看護師)

昨年に続き、水生生物観察と森林散策を通して、その生き物のすみかである川=水と森林のつながりを実感してもらうことを目的とした体験講座である。10時30分集会棟前でオリエンテーション。愛木リーダーから水生生物観察に当たっての説明と注意の後、4班に分かれて寄沢へ。晴天で適度な水かさの清流に、嬉々としてジャブジャブ。子供は元より大人も童心に帰る夢中、網に入ったカジカに感動の漁と川遊び。昼食後は観察のふりかえり。採取したサワガニ、カジカ、ヘビトンボ、トビゲラ、カワゲラ、カゲロウ等を集計とまとめ。大人に混じって、小学生が元気に発表できて拍手喝采。そんな中、水生生物の観察に詳しい参加者は、寄沢の清さと生物の豊かさ感激していた。

13時30分から森林観察、Bコースで森の説明。児童も幼児も、元気に一周できたのはすばらしいことだった。全体のまとめをもって終了、15時30分新松田駅で解散した。

やどりき水源林における、水生生物観察と森林散策のセットは大変意義深く、来年以降も継続を期待したい講座である。

(記 10期 松山)

やどりき水源林
ミニガイド

8月のトピックス

・タマアジサイが渓谷を彩ります。



9月の見所

・実りの秋です。アブラチャンやツノハシバミの実がふくらみます。



「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・祝日午後1時より1～2時間程度（冬季休止）
- 集合：水源林入口ゲート前
- 内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(社) かながわ森林づくり公社 県民運動課
Tel 0465-85-1900
- ホームページ：
http://www.ny.airnet.ne.jp/k_sirin/
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

丹沢エコツーリズム担い手育成講座

内容：エコツーリズムの理念や伝える技術を学ぶ講座と、山岳地での安全ガイド・事故発生時の対応技術などを学ぶ講座。

期間：平成20年9月～12月の連続講座
(合宿2回・日帰り2回)

9/26(金)～28(日) 第1回合宿

受講費用：43000円(3泊分の宿泊費、保険用具代)

募集人員：20名・20歳～65歳(以上も可)

応募締め切り：9月12日まで、

くわしくは：自然環境保全センター自然保護課

吉田直哉様 厚木市七沢657

電話：046-248-6682 まで

◇森のなかま原稿募集◇

送り先

<①手書き原稿送り先>

森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784

Fax/<株リコー・森宛 045-590-1910>

Mail : myforest@yha.att.ne.jp

<②メール原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax : 045-476-4112

Mail : murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良2丁目10-5

Tel/Fax : 045-961-6695

Mail : ik_forester@jcom.home.ne.jp

【メールCCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax : 042-796-6011

Mail : morimoto@bikkuri.co.jp

原稿の締切は毎月20日です。

◇編集後記◇

★お盆休みは5泊6日で千葉に所有する山の整備、蛇、蜂、脱水症状など改めて山の厳しさを味わいました。一人での作業は、蜂刺され、怪我などへの対応が心配でした。いい森になりました。来年は皆さんを誘いたいと思います。(金森)

★地球の裏側は遠かった。ボリビアは産業もない900万人口、南米最貧国だが、一生懸命生きている生活感はたっぷり。比べる日本は贅沢さが考えの多さが要望が、あり余る豊かさがある。他見要自戒必要有。(鈴木)

「教師のための森の教室」に参加された先生の中に、青年海外協力隊で2年間中米で活動された女性教師がおられました。色々話を伺い、こちらも元気をもらいました。(井出)

★19年目の北八ヶ岳白駒池畔クラシック・コンサートに今年も参加、コメツガ、シラベ、トウヒの林、静かな世界に流れる弦楽四重奏に身も心も癒されました。(村井)

★8月は3回、ネットワーク活動に参加しました。(冷や)汗もかきましたが、それは楽しく有意義なものでした。「やはり野におけ、インストラクター」実践が一番です。(森本)

★10月号の手書き原稿は私宛にお願いします。鈴木松弘さんが海外遠征登山のためのピンチヒッターです。(森)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：森本正信

広報部：井出恒夫、鈴木松弘、

村井正孝、金森 巖

森 義徳、

ヤマケイ・カルチャークラブ ●山岳ライター石丸哲也氏同行

「花の遠足」その時期ならではの花と軽ハイキングを楽しむバスツアーをご紹介します。

太平山と秋草 日帰り	横尾山・日帰り	三森山 日帰り
出発日：9/18(木)～ 横浜駅西口天理ビル前 7:30 集合	出発日：10/18(木)～ 横浜駅西口天理ビル前 7:30 集合	出発日：12/18(木)～ 横浜駅西口天理ビル前 7:30 集合

ご不明な点がございましたら、下記まで気楽にお問合せください。



〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル

Tel:03(3503)1911 info@alpine-tour.com

<http://www.alpine-tour.com>

身近な日本の山旅から世界各地の山岳リゾートや辺境の地までアルパインツアーは自然を愛する方々を地球のデコボコへご案内します。次の山旅は、アルパインツアーで出かけてみませんか。